



〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学院
文京学院大学外国語学部・経営学部・
人間学部・保健医療技術学部／大学院
／文京学院大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部
／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806

〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校
文京学院大学女子中学校
〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3
☎03-3946-5301

高校 サッカー部 東京予選「3位入賞」

高校サッカー部は、8月22日より開幕した「第31回全日本高等学校女子サッカー選手権大会 東京予選」で、「3位入賞」を果たしました。

順調に勝ち進み、迎えた準決勝では、修徳高校を相手に1-4で敗れる結果となりました。9月23日、3位決定戦(対都立杉並総合高校)が、清瀬内山公園にて行われ、ここ2年間、1度も勝つことができなかった杉並総合高校との対戦は、白熱した試合展開となりました。そして、遂に72分(試合時間は80分)、高3主将の田中実憂選手(3杉)が決勝ゴールを決め、1-0で勝利し、3位を勝ち取ることができました。



「3位入賞」を果たしたサッカー部メンバー

ノーシードで1回戦から勝ち上がるにつれチームが成長していき、そして、主将の田中選手が準々決勝と3位決定戦で貴重なゴールを決めるという、「鳥肌」が立つような試合を今回の東京予選で選手たちが見せてくれました。久しぶりに有観客(保護者のみ)で行われた大会で、躍進を見せた高校サッカー部。保護者の方々からは、惜みない拍手が送られました。

高校 チアダンス部 「審査員特別賞」受賞

9月18日、ALL JAPAN CHEER DANCE CHAMPIONSHIP 2022「第22回全日本チアダンス選手権大会 関東予選大会」が千葉ポートアリーナで開催され、本校チアダンス部の高校生16名が出場しました。大会当日は台風による大雨で、交通機関への影響などの心配もありましたが、チームが一丸となって練習の成果を発揮しました。



チーム一丸となって演技を行った生徒たち

そして、チーム全体で踊ることを楽しんでいる様子が伝わってくる演技を披露し、出場92チーム中、笑顔やスピリットなどから審査員の印象に残ったチームに贈られる「審査員特別賞」を受賞しました。次の大会への課題を見つけ、気持ちを新たにまた頑張っていきます!

大学 神田女学園中学校高等学校との 高大接続に関する 包括連携協定を締結

10月6日、本学と神田女学園中学校高等学校(校長 芦澤康宏)との高大接続に関する包括連携協定締結式が本学本郷キャンパスにて実施されました。

本協定は、高大連携による教育活動への相互理解を深め、様々な交流・連携を図ることで、高校教育・大学教育を活性化していくことを目的としています。

今回の教育連携の取り組みの1つに、中学・高等学校新課程における「探究学習」のサポートがあります。神田女学園中学校高等学校は、伝統に裏打ちされたリベラルアーツ教育と言語教育等、実社会の諸問題の最適解を探究する学びを推進されています。本学の特徴の1つである地域や企業との実践型教育(PBL)や、英語はもとより、韓国語等の多言語やジェンダーの研究活動が盛んな外国語学部を中心に連携をし、本学の教員・学生によるサポートやアドバイスを行っていきます。また、他学部も含めた教育連携や正課外活動、教職員交流、進路連携等を実施することも予定しています。



神田女学園中学校高等学校芦澤校長(前列左から2番目)と櫻井隆学長(同3番目)を囲む関係者

大学 日本数学教育学会から 表彰

8月4日、教職課程センター加藤竜吾特任教授が、公益社団法人日本数学教育学会から、「全国算数・数学教育研究大会 第103回大会」における「全国大会優秀研究賞」(発表論文題目:東京都におけるランドデザインと数学科のルーブリックについて)、並びに、上記学会の幹事・委員などを永く努めその運営に尽力したことによる「功労賞」を受賞されました。



加藤特任教授



大学 神奈川県警察本部 刑事部から感謝状授与

9月12日、保健医療技術学部理学療法学科樋口桂教授に神奈川県警察本部刑事部から「感謝状」が授与されました。樋口教授は解剖学が専門で、神奈川県中原警察署管内で発生した殺人事件に積極的に協力し、事件解決に大きく貢献したことが評価されました。



感謝状を授与された樋口教授(右)

大学 ふじみ野市から表彰

10月2日、人間学部人間福祉学科中島修学科長・教授が、長年にわたり、ふじみ野市の地域の生活支援に尽力してきた功績が認められ、同市から表彰されました。

中島教授は、ふじみ野市地域自立支援協議会会長(ふじみ野市障がい福祉課主管)として、障がい福祉計画などに8年間携わってきたことが高く評価され、この度「地域自治功労」としての表彰となりました。



中島教授



GREEN SPIRITS



より良い未来を つくる担い手を

教務部長・
保健医療技術学部教授 西方浩一

今年度より教務部長を務めております西方浩一です。教務にはこれまで学部の教務委員や教務委員長として長く関わってきましたが、大学全体の教務に関わる内容を理解し調整する仕事の難しさや重責を日々感じております。

高等教育機関が担う役割は日々変化し、社会状況を認識するとともに、改革が求められています。グローバル化、

高大接続、Society5.0、社会人基礎力の育成、データサイエンス、文理融合、教養教育科目、学習者本位の教育など新たなテーマが次から次へと押し寄せ、本学の教育にどのように適応していけば良いのかを検討しなければならない状況となっています。これらの検討は、教務に関わっておられる全ての教職員の協力無しには進まない状況であり、今後もお力添えを得ながら本学の特性を活かした教育環境の整備ができればと考えています。

さて、本当に恥ずかしいことですが、私は最近になり、教育学者のPaulo Freireについて知る機会を得て、名著である『被抑圧者の教育学』を読みました。銀行型教育の批判、教師と生徒の主従関係が抑圧の構図となること、対話をもとに行われる教育が重要であることが強調されています。今から50年前に著された本の中に現代に通

じる教育の本質が記されていることに驚きと興奮を覚えました。

先に述べたように、大学を取り巻く環境は厳しい時代となっています。もちろん国の動向や社会状況を把握し、大学教育のあるべき姿を探ることは重要なことと思いますが、一方で、教育とは何かという本質を見誤ることの危険性を孕んでいるのではないかと感じました。私は、教育は学ぶ人々のエンパワーメントを高め、より良い未来をつくる担い手を育てることだと信じています。単に社会的圧力の要請に応じるだけではなく、教育本来の目的を忘れずにいることが必要と考えています。不条理で不確定な時代だからこそ、学生たちが生き抜く力を備えられるよう、日々の対話とともにその環境作りに微力ですが関わっていきたくと考えています。

文京祭・あやめ祭開催

万全な新型コロナウイルス感染症対策のもと、文京祭は10月8日に、あやめ祭は10月8日と9日に対面で開催されました。企画から実施までを担当した、文京祭実行委員会とあやめ祭実行委員会の学生からコメントが寄せられました。

文京祭(本郷キャンパス) 10月8日

◆文京祭実行委員長 新堀えりか(経営学部3年)

対面での文京祭を経験した学生がいない中での開催で、不安や緊張がありました。しかし、委員全員で切磋琢磨して納得のいく文京祭を迎えることができました。無事に成功して良かったです。私自身の良い経験にもなりました。

◆イベント局模擬店部長 インベリアル ジュダー ミカエラ プラタ(外国語学部3年)

3年ぶりに模擬店を行うことになり、誰も経験者がいない中、私に模擬店部長が務まるかとても不安でした。大きな問題も起きず、無事に模擬店が成功したのもサポートしてくれた方々のおかげです。この経験を今後活かしていきたいです。

◆ステージ局アーティスト部長 新井悠介(経営学部3年)

3年ぶりの対面開催ということで、ゲスト選びにも力を入れました。午後の部は、外部ゲスト講演で400席を満員にすることができ、大いに盛り上がることができました。仁愛ホールの準備は苦戦しましたが、試行錯誤しながら、局員メンバーの力も借りて無事成功することができました。久しぶりの対面開催が盛り上がり、とても嬉しかったです。

[Photo Gallery]



あやめ祭(ふじみ野キャンパス) 10月8日・9日

◆あやめ祭実行委員長 渡辺晴海(保健医療技術学部3年)

今年のあやめ祭は3年ぶりの対面開催でした。対面を経験していない学生のみで準備を進めることが、最初は大変不安でした。しかし、あやめ祭実行委員の仲間や、先輩方のご協力により、無事に成功することができました。ご来場いただいた方に楽しんでいただけたことは、実行委員全員にとって良い経験になりました。本当にありがとうございました。

◆アーティスト局局長 西野亜紗希(人間学部3年)

3年ぶりの対面開催ということで、お客さんにリアルな空間を楽しんでいただくことを目標に実施しました。座席の配置や内容等、何がベストなのかギリギリまで悩みました。企業の方との交渉や、連日の早朝からの準備に心身ともに疲弊していましたが、来場者の方々の楽しそうな様子を見ることができ、何事もなく開催出来て良かったなど心の底から思い、今までの苦労が報われました。この経験を社会に出てからも生かしていきたいです。

◆制作局局長 藤 ひなた(人間学部2年)

今年は3年ぶりの対面開催となり、実行委員全員が対面での大学祭開催が初体験となりました。あやめ祭に向けて準備を始めた当初は、未知なことが多く、デザインを考えることに不安がありました。しかし、制作局の仲間や幹部の皆さんに協力してもらいながら、彩り豊かなキャンパスを作ることが出来ました。今後は今回の経験を踏まえ、さらに活気のあるあやめ祭の開催を目指します!

[Photo Gallery]



幼稚園 運動会開催

万全な新型コロナウイルス感染症対策のもと、文京幼稚園(益田薫子園長)とふじみ野幼稚園(柄田毅園長)の園庭で、学年別運動会が開催されました。

ふじみ野幼稚園 10月1日

10月1日、快晴の下運動会を行いました。新型コロナウイルス感染拡大予防として、学年ごとの開催となりましたが、走・跳・親子競技の3種目を3学年ともに行いました。

年少組にとっては、初めての運動会。ゴールにいる保護者の方の元まで走る姿に感激する方もいらっしゃいました。普段から跳っている「エビカニクス」「バイナボー体操」を披露しました。

年中組は、途中で福笑いをしてゴールする斬新なかけこをしました。ユニークな担任の顔に仕上げ、会場が笑いの渦に。ミニタンバリンをもって「さかなごはん」を踊りました。

年長組は「笑顔とポーズは無限大∞」と称して、友達と顔を見合わせて笑いながら踊り、一人一人がオリジナルのポーズを決めました。最後はリレーで感動の時間となりました。どのクラスが勝っても、精一杯頑張った子どもたちに拍手です。

[Photo Gallery]



文京幼稚園 10月8日

3学年共、元気な入場行進して開会式から運動会はスタート。「始めの体操」で、体を伸び伸び動かし、気持ちも高まりました。

(年少組) ●競技「にこにこかけこ」●リズム「フルーツポンチ めしあがれ」●親子ふれあい「さくらんぼのマンボ」初めての運動会は、おうちの方に見てもらって大満足でした。

(年中組) ●体操「ゴールを目指して」●リズム「ブンパンパラダイス」●競技「みんなの元気を届けよう」自分で工夫して作った手具を手に笑顔いっぱい踊りました。

(年長組) ●体操「文京オリンピック」●リズム「パラバルーン」●リレー 各自が目標を持って努力した所、仲間と協調する姿は5歳児ならではの素晴らしく、感動的でした。保護者の方には「我が子の成長」をたくさん感じて頂ける運動会となりました。

[Photo Gallery]



留学特集(後編)

本学では、世界の感染状況を鑑みたくて、今夏6カ国への海外留学を再開しました。今回は留学特集の後編として、3カ国4方面の留学に関する学生のコメントをお伝えします。

交換留学(アメリカ/セント・ジョーンズ セント・ベネディクト大学)
 日程: 2022年8月22日~2023年5月16日 人数: 5名

参加学生共同コメント

石山芽依(写真左) (外国語学部2年)
 中田夢叶(写真右前) (外国語学部2年)

キャンパス内の教会前にて

私たちがセント・ジョーンズ セント・ベネディクト大学に来て、2週間が経ちました。広大な敷地で、自然が豊かなキャンパスはとても居心地がよく、勉強に集中するのに快適な環境が整っています。お気に入りの場所は図書館で、いつでも勉強をやる気にさせてくれるような場所です。授業が始まってから1週間が経ち、アメリカの授業がどのようなものなのか、ということが大体つかめてきました。日本の授業形式とは異なり、ディスカッションがメインなので、積極性が大事だなと実感しています。

短期語学留学(オーストラリア/サザンクロス大学)
 日程: 2022年8月6日~9月10日 人数: 21名

参加学生のコメント

竹山侑希(写真左) (外国語学部2年)

リスモアアコアホスピタルでの授業風景

私はこの夏、オーストラリア短期語学留学に参加しました。夏休み中の5週間で、自分の力を試すとても良い機会でした。渡豪前はコロナや言語の不安がありましたが、ホストファミリーや先生方がとてもウェルカムな姿勢で接してくれたため、初日で不安はなくなりました。授業やホストファミリーとの生活において、自分の語学力や異文化を知り、将来への目標が明確になりました。ぜひこの経験を活かし、残りの大学生活を良いものに使いたいです。

短期語学留学(アメリカ/デラウェア大学)
 日程: 2022年8月28日~9月18日 人数: 8名

参加学生のコメント

横井千莉(写真左から5番目) (外国語学部3年)

デラウェア大学のキャンパス

アメリカのデラウェア州に短期留学しました。私のアメリカでの滞在で、一番の思い出はホストファミリーと過ごした時間です。ホストファミリーの夫婦はとても優しく、お二人は料理が得意で、毎日美味しいごはんを作ってくれました。毎日夕食を一緒に食べ、その時間にお互いのことを話して、コミュニケーションをとりました。特に、会話の中で自分の想いを上手く英語で伝えるのは難しいことだと感じました。しかし、気持ちを一生懸命伝えようとしたら、相手には必ず伝わるものだとことも学ぶことができました。この留学を通じて、英語で会話をするということに対する自信につながりました。

GCI語学・異文化理解留学(タイ/タマサート大学)
 日程: 2022年8月6日~9月4日 人数: 15名

参加学生のコメント

大久保光優(写真左) (経営学部1年)

タイ民族衣装体験

私はこの夏、GCI語学・異文化理解留学に参加し、タイで1ヶ月間過ごしたことで、さまざまな人と関わる事ができました。さらに、同年代の友人の考え方や行動力に刺激を受け、多国籍の友人ができたことで、自分の英語力に少し自信をつけることができました。今回の留学で終わらずに、残りの大学生活では、より海外を訪問し、色々な人と関わり、さまざまな価値観に触れることで、自分の中の視野を一層広げていきたいです。

大学 レイクランド大学ジャパン・キャンパスに 外国語学部生が国内留学

4月に包括協定を締結した레이크ランド大学ジャパン・キャンパスで、協定締結後初の国内留学プログラム「夏季短期英語研修EAP (English for Academic Purposes)」が実施され、本学の外国語学部3年生の北島法佳さんが参加しました。8月29日~9月16日の約3週間にわたり、北島さんは墨田区にある레이크ランド大学ジャパン・キャンパスに通い、레이크ランド学生と共に、全て英語の授業を受けながら、英語力を向上させました。

国内留学は海外留学と異なり、留学費用を大幅に抑えられ、日本にいながら海外の大学の授業に出席し英語力を習得できる。新たなグローバル型教育の一つとして、本年から実施しています。

今回のプログラムは、参加学生の待遇として、레이크ランド大学ジャパン・キャンパスの学生学習センターで、個別にチューターが付きまます。また、協定締結校特別割引金額が適用され、参加学生は参加費が通常の20%の割引となり、テキストや学生生活への参加費が無料になります。本学からも、出席日数等の条件を満たすと支援金が支給されるため、参加する学生は費用面にも大きなメリットがあり、国内で気軽に海外留学に近い経験ができるようになっています。

以下、参加した学生のコメントです。

参加学生のコメント

北島法佳 (外国語学部3年)

私は、海外留学への夢を持って入学しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大という予期せぬ事態が起こり、渡航にはまだ不安がありました。しかし、本学には、레이크ランド大学ジャパン・キャンパスでの国内留学という機会があり、参加してみると、授業も日本人同士でも英語を使ってコミュニケーションをとって過ごすため、英語の基礎力や会話力もアップし、英語力が身に付いたと実感しています。授業スタイルも全く異なる레이크ランド大学ジャパン・キャンパスでの国内留学は、私にいろいろな気づきを与えてくれた3週間となりました。

大学 第4回「新・文明の旅」プログラム インドネシア共和国への学生派遣を実施

第4回「新・文明の旅」プログラムは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、プログラム実施を1年遅らせて、2021年4月より授業を開始しました。

今回、インドネシア共和国への派遣実施が決定し、総合講義履修生約40名の中から5名の学生が派遣メンバーに選出されました。そして、8月30日に結団式・壮行会が実施され、9月5日~10日の期間で現地へと出発しました。

現地では、Earth Companyによるフィールドワークプログラムとして、「Sungai Watch」主催のウブド河川清掃活動への参加や先端的エコスクール「グリーンスクール」の訪問などを行い、コーヒー農園や棚田の視察、ヒンドゥー教寺院、伝統舞踊鑑賞なども実施されました。また、ウダヤナ大学日本語学科を訪問し、現地の学生にそれぞれ自己紹介をした後、日本紹介と本学で取り組んだ環境プロジェクトの成果をプレゼンテーションしたり、現地学生との交流も行いました。

今回の海外派遣に参加した学生からは、以下のコメントが寄せられています。

参加学生のコメント

赤羽琉愛 (保健医療技術学部3年)

昨年は、コロナ禍のため、インドネシアとはオンラインでの交流となってしまいましたが、今回、実際に渡航して、自分の目で見て、耳で聞き、肌で感じたことは、一生の宝となりました。Earth Companyのプログラムに参加し、現地での環境問題について学び、そこから得た知識や経験から、大学生の自分たちにもできることが沢山あることを知りました。循環型キャンパスにするための具体的なイベントもこの旅を通してたくさん得ることができたので、これからも継続してこのプロジェクトを進め、環境に配慮した大学にしていきたいと思いました。

現地での詳しい内容は、学生の「現地レポート」をご覧ください。
<https://www.u-bunkyo.ac.jp/blog/rec4/>



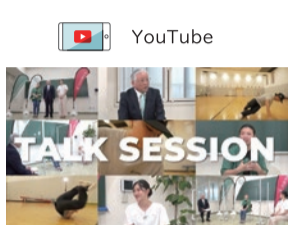
大学 パリ五輪「ブレイキン」出場候補 河合来夢さん応援企画第1弾
「ブレイキン&大学の魅力を追求
スペシャルトークセッション」実施

パリ五輪の新競技として注目を集める「ブレイキン」。本学では、「ブレイキン」でオリンピック出場を目指す河合来夢さん（人間学部児童発達学科3年）の応援企画を立ち上げ、その第1弾として、「ブレイキン&大学の魅力を追求 スペシャルトークセッション」を実施しました。



河合さん
TikTok
【公式】文京学院大学

河合さんは、文京学院大学人間学部児童発達学科に通いながら、ダンス競技であるブレイキンで世界的に活躍している大学生兼アスリートです。2018年ブエノスアイレスユースオリンピック金メダリストという輝かしい実績を持っているだけではなく、2024年開催のパリ五輪の出場候補として、注目されています。



《前編動画》 《後編動画》



今回のスペシャルトークセッションは、前編・後編の2本で構成する動画で配信しています。動画では、河合さんがブレイキンを練習している様子から、本学代表として櫻井隆学長、学生代表として人間学部心理学科3年の山本芽里さんと一緒に、ブレイキンの魅力をはじめ、アスリートと学生を両立する方法、文京学院大学での学び、さらには「櫻井学長へのNG無し質問コーナー」も設け、普段なかなか聞くことができない内容も含め熱く語り合いました。是非ご視聴ください！

大学 “ゴミ箱難民救済アプリ”「ゴミる」
学内で試験的に活用

「社会的課題を心理学とアプリで解決」をテーマとした研究を行う、人間学部心理学科の永久ひさ子教授と心理学科3年生20名による、第一弾研究“ゴミ箱難民救済アプリ”「ゴミる」が開発されました。

本アプリは、学生自身が日々の生活において感じる「ゴミを捨てたくても、どのゴミ箱に捨てたらよいかわからない」「わからないため、目の前にあるゴミ箱に捨ててしまう」といった、分別とゴミ捨ての所在の不明について問題を提起したことから開発が始まり、学生が通うふじみ野市のゴミの分別方法と、本学ふじみ野キャンパス内のゴミ箱の場所や種類を調べ、日常で出るゴミとのマッチングを図る設計をノーコードで行い、開発が進められました。



「ゴミる」アプリ画面

完成したアプリは、ゴミの分別方法と大学内のゴミ箱情報を検索することができ、どこに捨てたらよいかの日常の悩みを解決するものとして、現在本学ふじみ野キャンパス内で利用を開始しています。

以下、開発に関わった学生たちのコメントです。

後藤響、森田薫、小澤彩夏、下山なのは、田中真由（人間学部3年）

私たちは、自分の通う大学のゴミ箱の場所を詳しく知らないために、目の前のゴミ箱に捨ててしまうことに気づき、環境問題を心理学とかけ合わせて解決したいと考えました。学生がよく使うスマホアプリで解決することに決め、ゴミの分別を正しく行うことで資源として有効活用され、処理する廃棄物が少なくなることも知ってほしいと思い、アプリ開発に着手しました。開発にあたっては、ネットで全文英語の説明を読み、機能やデザインの試行錯誤を重ねました。

今回のプロジェクトを実施してみて、今まではどこか他人事だったSDGsが、自分たちの生活と強く結びついているのだなと感じました。

大学 学長裁量経費顕彰

6月に「2022年度（2021年度採択分）学長裁量経費・顕彰選考委員会」が行われ、全学教授会において、次の先生方が櫻井隆学長より顕彰され、9月に代表者に賞状と盾が授与されました。

●テーマ「アクティブラーニングによる教育改革」
VRを用いた触診技術教材の開発

【申請者】保健医療技術学部：山崎敦教授（代表者）、中俣修准教授、具志堅敏准教授、福井勉教授／学習支援ふじみ野グループ：東城俊太郎センター長補佐／学習支援本郷グループ：鈴木勲アシスタントマネジャー



山崎教授（左）、櫻井学長（右）

●テーマ「ストレス耐性のある人材育成」（DX推進）遠隔教育にともなう学生のストレス状態把握と解消法の提案

【申請者】人間学部：長野祐一郎准教授（代表者）、畑倫子准教授／保健医療技術学部：正保哲准教授



長野准教授（左）、櫻井学長（右）

BOOK INTRODUCTION
書籍紹介



『理学療法士が教える自分ができる首コリ・痛みの治し方』

テレビや雑誌等でも様々な首のセルフケアを紹介している保健医療技術学部の上田泰久准教授が、不調の原因について、首の構造から改善方法を写真とイラストを使い、分かりやすく解説しています。普段、患者を診ている理学療法士だからこそわかる、姿勢の悪化や生活習慣による関節・筋肉・神経のトラブルで起こる首のコリや痛み、悪化させてしまう原因を整理し、自分で治せるストレッチ&エクササイズと指圧方法を紹介しています。

著者：上田泰久（保健医療技術学部准教授）／マイナビ出版（2022年9月）／1,672円（税込）

大学 藤沢市等との産官学国際連携教育プログラム
「GLOBAL BLUEHANDS PROJECT」を実施

8月末に来日した、米国をはじめ6カ国の大学からの留学生を対象とした国際連携教育プログラム「GLOBAL BLUEHANDS PROJECT」が実施されました。

今回は、藤沢市との初連携プロジェクトとして、10月1日～3日の3日間、神奈川県藤沢市で、藤沢市の伝統芸術である「浮世絵」をはじめとする文化・歴史を学び、そして、市のSDGsの取り組みとして2021年12月に発足し、注目を集める「FUJISAWA BLUEHANDS PROJECT」とのコラボレーションとなりました。藍左師・守谷玲太氏（株式会社アートモリヤ）から、世界に誇れるサステナブルな伝統工芸「藍染」に関するレクチャー並びに藍左官の技法を学ぶ藍染体験が実施されました。

事前学習として、藤沢市および藍の歴史文化や取り組みに関する授業を実施し、プログラム実施当日は、時宗総本山遊行寺での阿波踊り鑑賞と踊りワークショップ、藍染・水墨画体験、藤沢市藤澤浮世絵館でのアートスペース実習（藍の紙粘土と空き瓶を使った一輪挿しづくり）や浮世絵刷り体験、江の島フィールドワーク、鎌倉大仏見学などが行われました。

参加した学生（留学生+本学学生）たちは、日本の伝統工芸・美術・歴史について理解を深めるだけでなく、藤沢市の社会課題の解決を行う事業取組の体験を通して、より一層の日本文化への理解と、学生と市の充実した国際交流となりました。

さらに、本プロジェクト終了後、10月13日～27日の2週間にわたり、藤沢市役所本庁舎1Fフロアにて、今回の藍染体験やアートスペース実習で制作された留学生と本学学生の作品が「作品展」として展示されました。



藍染体験をする留学生



遊行寺での阿波踊り体験



水墨画体験をする留学生



2日目に実施された江の島フィールドワーク



浮世絵刷り体験に満足する留学生



藤沢市役所で実施された作品展

ひたむき・まえむき・おもむき
tomoちゃん

第86回

画：美術部（高2）H.Y.

